

満月に心落ち着く

新座市立東北小6年

青山 あかり 12(新座市)

この世をばわが世とぞ思ふ
望月の欠けたることもなしと
思へば——これは、藤原道長
が1016年に摂政になり、
満ち足りた気持ちで満月に例
えた和歌である。

この歌にあるように、昔の
人は満月を見て満足していた
のだと思う。現代に生きる私
たちも、満月を見て何か風情
を感じるように思う。この前
は中秋の名月であった。黄金
色に光る満月は自然と心を落
ち着かせる。悠長で、時に慌
ただしい毎日の中で、少しず
つ変わりゆく月をたまに見る
ことによつて妙に落ち着いた
感覚になるのだ。

絶えずせわしなくなつてい
く現代社会。頭を使うのも大
事だが、時には何も考えずた
だ自然の趣に浸るのも悪くな
いのかもしれない。